

8.

蝦夷の主要武器 「蕨手刀」

日本刀のルーツ 「舞草刀」 を訪ねて一関博物館へ

2001. 10. 11, ktkmi01.htm by M. Nakanishi



一関市立博物館 一関市巖美溪

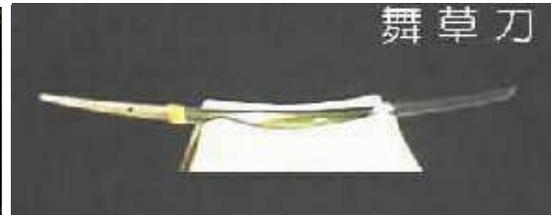


宮城・岩手の国境にそびえる栗駒山 2001. 9. 22.

古代 奥州で生まれた日本刀のルーツ



蕨手刀



舞草刀

8.1. 北上川流域の和鉄



岩手北上盆地から太平洋(右側) 栗駒山頂から 2001. 9. 22.

10 月半ば 一度訪問したいと考えていた北上・一関を訪問仙台をでて約 30 分 新幹線が広い宮城平野を抜け 右手に栗駒山・栗駒高原を背後にした広い田園地帯が広がる。栗駒山・焼石岳などの連なる奥羽山脈と北上山地にはさまれた広い田園地帯で、岩手県の母なる川「北上川」がその中央部を北から南へ流れ下る川沿いに南から北へ一関・平泉・水沢・江刺・北上・花巻・盛岡と点々と街が続く北上地方である。

ここは この山間は古代から鉄や金などの鉱物資源が豊富な土地で、古代 奥州・蝦夷 が活躍した根拠地。蝦夷の首領「アテルイ」が「蕨手刀」を武器に大和朝廷に最後まで抵抗した土地である。

水沢・江刺の北上川の東には奥州征伐の前線基地 胆沢城跡が残る。そして、中世 一関・平泉では金や鉄など豊富な鉱物資源を背景に藤原三代が栄華をほこった。

また、「鉄の国 岩手」を支える鉄の中心は「南部」久慈から釜石へかけての海岸地帯であるが、古代・中世にはむしろその中心は北上川沿いの盆地であると聞く。 蝦夷の兵器庫・鍛冶部がどこにあったの

か 自分は知らないが、蝦夷が使った「蕨手刀」。

それまで「突き」が主体の「直刀」であった刀に対し、「切る」ことを主に「反り」をつけた「蕨手刀」が、猛威をふるった。その後 中世この蝦夷刀鍛冶の伝統を受け継いだすごい刀「舞草刀」がこの土地（一関近郊 舞草）で生まれた。この刀が「反りと長身」を有する日本刀のルーツだという。

盛岡の岩手県立博物館には「奥州 和鉄」の多くの資料がありそう。また、一関博物館には「奥州鍛冶」や「蕨手刀」の展示があると聞き、是非一度ゆっくり訪ねたいところだった。

何度も東北新幹線では通るもののゆっくり歩いた事なし。一関・平泉に出掛けたのはもう 30 数年前。栗駒岳登山と引っ掛け、一関へ。また 10 月 11 日秋の溶接学会出席の帰りに盛岡岩手県立博物館そして現在の岩手一の工業都市北上にもよって帰りました。

一関博物館では蝦夷の首領アテルイが使った「蕨手刀」や古代奥州鍛冶の流れ 日本刀の原型「舞草刀」を知ることができました。また、奥州の和鉄製造に広く使われたと言う主要原料「餅鉄」。聞いた写真で見たことはありますが、まじかにみるのは初めてでした。ましてや 川などから得られ、そのまま製鉄原料として使われていたなど知らず。実際に物を見て、本などに書かれている事など理解出来ました。

北上川沿いに新幹線が走るたびに 一度は下車して調べて見たいとおもいつづけていた「和鉄の北上地方」「蝦夷と蕨手刀」と「餅鉄」。この二つの不思議な謎がやっと解けたような気がします。

今度は岩手のもう一つの和鉄の中心地 釜石から三陸海岸沿いに久慈まで歩きたい。10 数年前 後背地北上山地の圧倒的な木々の多さと海岸の陰しさに圧倒されながら歩いた和鉄の道。当時は全くみむきもされなかった和鉄の道ですが、今はどうなっているのだろうか????。

10 数年をへて 日本の近代製鉄業も変わりつつあり、また、日本各地のたたら遺跡が日本歴史の 1 ページとして掘り返されつつある今 どんな風になっているか 楽しみでもある。

2001. 10. 21. M. Nakanishi

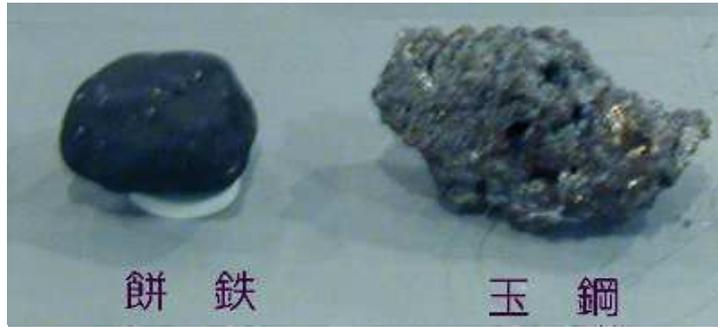
岩手県 北上川流域 の 和 鉄

8.2. 一 関 市 立 博 物 館 で

ktkmi02.htm by M. Nakanishi



1. 餅 鉄
2. 蝦夷の首領 阿弭流 為の蕨手刀
3. 舞 草 刀
4. 参 考
 1. 古代畿内勢力の蝦夷征伐の兵器庫
福島県原町 金沢製鉄遺跡
 2. 平泉中尊寺・盛岡 岩手県立博物館



1. 餅鉄

古代東北地方で産出した粒状・塊状の磁鉄鉱で主砂鉄や鉄鉱石と共に蝦夷が使用した要鉄資源。
 (平均2キロ。1個で50キロのものもあるという。)

餅鉄は破碎を必要としない粒状のものもあり、主に河の中などに堆積しているが、山道や耕地にもある。金属状の光沢があるので採取しやすい。特に岩手県釜石付近の餅鉄は純度が高く、鉄分含有量が平均70%。特にリンやイオウなどの不純物が少ないなど良質。

北上で後年出土した「蕨手刀」の製鉄原料として この「餅鉄」を原料として精練・鍛冶されたものが多数ふくまれているといわれている。

2. 蝦夷の首領 阿弭流為の蕨手刀



蕨手刀は5世紀末には既に製造がはじまっており、奈良時代後期を中心にして、奈良時代前期から平安時代初期にわたってつくられたもの。特に北上の胆沢と和賀が拠点とみられ、餅鉄や砂鉄を原料につくられた。この頃大和朝廷の奥州征伐に対して、激しく抵抗した蝦夷の主要武器として威力を発揮した。蝦夷の首領阿弭流為の蕨手刀は66cmぐらいあったという。

現在鹿児島や徳島まで180刀発見されているが、岩手が57刀と断然多い。奈良の正倉院にもこの「蕨手刀」がある。

一関市立一関博物館 展示より

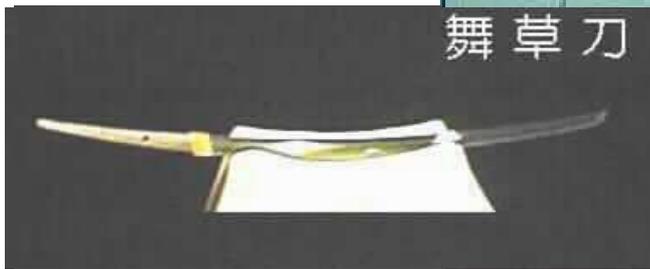
「奥州でいつ鉄の加工鍛冶・精練がはじまったのか？」は定かでないが、700年文武天皇の製鉄禁止例「東辺北辺に鉄冶を置く事得じ」との令がでて、蝦夷の武器作りに大和朝廷が神経質になっていた事が記されている。

この事から かなり古くから鉄の加工・鍛冶精練が始まっていた事がうかがえる。おそらく 大陸・朝

鮮半島からやって来た渡来人を通じ、鉄鍛冶の技術が伝えられていたのであろう。

この禁止令が出た頃 奥州には渡来人の刀匠(漢国鍛冶)がいたことが記録されている。そして この奥州の鉄鍛冶・刀作りの優秀性は奈良・平安時代都にも広く伝わり、奥州刀が都に広く持ち込まれている。一関郊外の「舞草」はその刀鍛冶の中心の一つとして、蝦夷が滅んだ跡 蕨手刀を改良して長身で反りのある刀「舞草刀」を作った。これが、日本刀のルーツとして奥州鍛冶とともに日本全国へ伝播していった。

3. 舞草刀



舞草刀 一関市

一関市を流れる北上川の東側にある舞草地区
ここには鉄落山はじめ、刀鍛冶伝承や地名、
信仰された石像などの平安時代に栄えた舞草
刀鍛冶の痕跡が残っている。
この地の鉄落山の南斜面から平安時代の土器
とともに鉄滓が出土しています。
刀身が長くて反りのある日本刀の原型がこの
舞草など奥州で作られ都で評判になった。
その後 藤原氏の衰退などで舞草など優秀な
奥州の刀鍛冶が各地に散らばり、この特徴あ
る刀作りが日本刀の原型として広がっていった。
蕨手刀を改良した舞草刀。舞草は日本刀の故郷

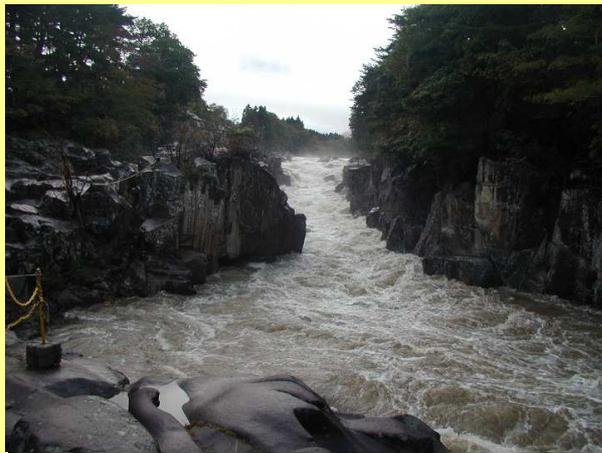
4. 参 考

1. 古代畿内勢力の蝦夷征伐の兵器庫 福島県 原町 金沢製鉄遺跡

【 黄金吹く 「行方製鉄遺跡」 】



2. 「一関・平泉」 点 景



巖 美 溪 と 一関博物館 一関 巖美



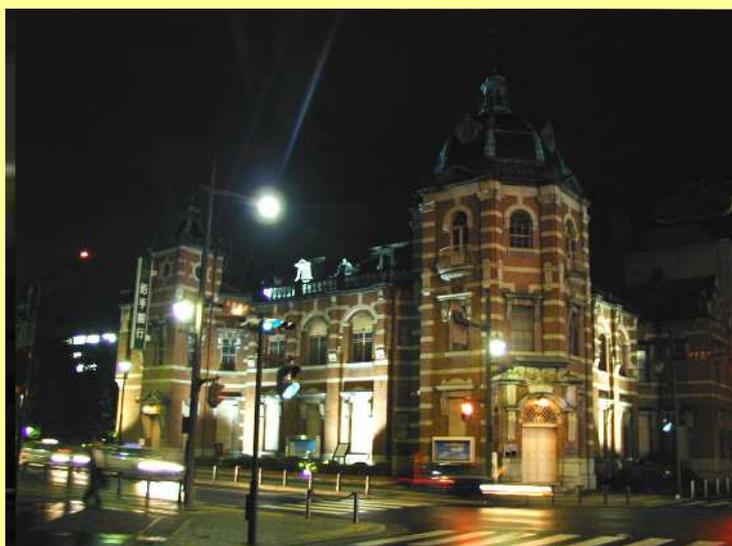
平泉 中尊寺 金色堂

中尊寺から 前九年の役 古戦場 2001.9.22

3. 岩手 盛岡



岩手県立博物館 岩手山を望む



盛岡の夜景と旧岩手銀行本店 2001. 10. 11